

千葉教育

菜

平成30年度
No.654

2月

特集

千葉の子どもの学力向上に向けて ～全国学力・学習状況調査を活用して～

○シリーズ 現代の教育事情

国立教育政策研究所教育課程研究センター 佐藤 寿仁
県教育庁教育振興部学習指導課
県総合教育センター学力調査部
横芝光町教育委員会

○提 言

キッコーマン株式会社常務執行役員 CHO (最高人事責任者) 人事部長 松崎 毅



千葉県総合教育センター

目次

千葉教育 菜 No.6 5 4

◆学校自慢

58人全員でがんばる学校

野田市立関宿中学校長 飯森 淳

◆提言

日本の未来を支える「企業人・社会人」の人材育成について キッコーマン株式会社常務執行役員 CHO（最高人事責任者） 人事部長 松崎 毅 …2

シリーズ！ 現代の教育事情 千葉の子どもの学力向上に向けて～全国学力・学習状況調査を活用して～

■全国学力・学習状況調査の結果を生かした授業改善及び充実を目指して 国立教育政策研究所教育課程研究センター 佐藤 寿仁 …4

■平成30年度全国学力・学習状況調査結果を踏まえた取組と学力向上施策について 県教育庁教育振興部学習指導課 …6

■分析ツールを活用した指導改善サイクルの確立 県総合教育センター学力調査部 …8

■横芝光町の学力向上対策 横芝光町教育委員会 …10

私の教師道

■学校を創る 笑顔とチームプレイ ～「槇の実」の取組～ 県立槇の実特別支援学校長 堀江 均 …12

■学校を支える 「教職員の業務改善」について教頭としてできること 我孫子市立湖北台東小学校教頭 中野 直美 …14

■学校を動かす 生徒指導を中心とした主幹教諭としての実践 柏市立南部中学校主幹教諭 小松 靖 …16

■子供を知る 「ほめる」ことの大切さ 浦安市立浦安小学校教諭 上野 莉奈 …17

■子供を知る 生徒とともに 君津市立君津中学校教諭 久保田芳克 …17

■授業を創る 主体的な学びを目指した道徳授業 長生郡白子町立南白亀小学校教諭 関 弘子 …18

活・研究 長期研修生からの報告

■小学校編 「整理・分析」場面から課題設定につなげる思考ツール「QADO」
～よりよい探究のプロセスを目指して～ 船橋市立薬円台南小学校教諭 杉本林太郎 …20

■小学校編 自立活動を参考にした対話的な学びへの参加
～通常の学級での算数科の学習指導を通して～ 鎌ケ谷市立中部小学校教諭 山田 千鶴 …23

■中学校編 中学校体育授業におけるベースボール型の系統的指導プログラムに関する研究
～1年生と2年生の接続を視野に入れて～ 長生村立長生中学校教諭 本吉 篤 …26

情報アラカルト

■先生方の研修を支援する新たなシステムを構築中 県総合教育センター研修企画部 …29

■学校の先生方へ ～教科・調べ学習に役立つブックリストの紹介～ 県立中央図書館 …30

■「としよ部っ！」はじめました。 ～中高生の読書活動推進のために～ 県立中央図書館 …31

■開館30周年を迎える千葉県立中央博物館 ～研究者の目線から～ 県立中央博物館 …32

■企画展示「マリンサイエンスギャラリー 水辺の外来生物～房総の海と川から～」 県立中央博物館分館海の博物館 …33

学校 NOW！

■先進校の取組 資質・能力の育成に向けたカリキュラム・マネジメントの推進
～「伝え合う活動」を軸に～ 八千代市立村上中学校 …34

■学校歳時記 移行措置を乗りきる学校経営チェックリスト 教育創造研究センター所長 高階 玲治 …36

◆発信！特別支援教育 高等学校における「通級による指導」実践 県総合教育センター特別支援教育部 …38

◆千葉歴史の散歩道 「文化財探検隊」「土器ッと古代“宅配便”」～文化財をもっと身近に！～

文化財課文化財普及・管理班主任上席文化財主事 成田 公敏

道 標

県教育委員会では、児童生徒の学力向上に向けて平成23年度に「ちばっ子『学力向上』総合プラン（ファイブ・アクション）」をスタートさせた。平成27年度には「第2期千葉県教育振興基本計画」の重点的な取組で、ちばっ子の学力向上を図っている。特に「アクション4『評価・改善』アクティブプラン」では、学力向上に向けた取組の適切な評価・改善の推進の視点から、全国学力・学習状況調査のデータ及び分析ツールの活用促進に取り組んでいる。

これまで、当然ながら、各市町村教育委員会や各学校等において、学力向上に向けて様々な取組は行ってきた。しかしながら、「全国学力・学習状況調査の分析結果の活用」が思うように進んでいない現状がある。昨年度も、本センターが取りまとめた「平成29年度全国学力・学習状況調査分析結果報告書」で報告したように、学校質問紙調査の全国学力・学習状況調査の分析結果の活用に関する問いに対して、肯定的な回答をした学校の割合が、全国と比べてやや下回る状況であった。この状況が継続してきた

という事実は、本県における課題と捉えるべきであろう。

そこで本県では、県内のすべての市町村教育委員会を対象にした「『全国学力・学習状況調査』の活用に関する研修会」の実施や、「ちばっ子『学力向上』総合プラン」に基づき実施している「学力向上交流会」の中で「全国学力・学習状況調査の分析結果の活用」の有効性についての協議の場を設定するなどの取組を地道に進めてきた。今年度の「全国学力・学習状況調査の分析結果を活用している割合」は、前年度に比べ増加していることから、本県として一層の活用推進策を講じていきたい。

本稿では、具体的な結果分析・活用の方策や実践例を紹介する。全国学力・学習状況調査の出題内容や分析結果を、調査対象学年の担当教職員のみならず全教職員で共有し、自校の成果と課題を明らかにするとともに、学校全体の教育活動の改善のためにどう活用したらよいか、より確かな学力の向上に資する有効な方策について考えていきたい。